

お鍬山 植物たより (H25. 12. 10)

お鍬山の師走は落葉しつつあるタカノツメの黄葉とコナラやアベマキの紅葉です。これらの落ち葉を踏みしめての散策もおつなものです。中央広場の植栽した二本のイロハモミジの紅葉もまだ観ることができます。正月も近づいてきました。縁起物として古来もてはやされてきた「マンリョウ(万両)・センリョウ(千両)・



カラタチバナ(百両)・ヤブコウジ(十両)・アリドオシ(一两)」はいづれも秋から冬に赤熟し、その小粒な赤い実をつけていることからきているようです。このうち、お鍬山にはマンリョウ・センリョウ・ヤブコウジが自生しています。センリョウはなかなか見つけることはできませんが、マンリョウとヤブコウジは遊歩道沿いの至る所で出会うことができます。正月といえばウラジロですが、遊歩道沿いの2か所ほどに自生しています。神棚に供えるサカキ、仏壇に供えるヒサカキは各所に自生しています。「ジュウドウ」(柔道)や「ツナミ」(津波)のように里山も「サトヤマ」として世界で通用するようになったと云われていますが、お鍬山もその「サトヤマ」(里山)です。いまでは正月用の縁起物や供え物のマンリョウやサカキ・ウラジロなどの多くは市販され、購入していますが、ほんの最近までは近くの山から採取して利用してきました。その近くの山が当地ではお鍬山でありました。まさに里山たるゆえんというべきでしょう。お鍬山の展望台からは六所山と炮烙山の間に出を見ることができます。正月はお鍬山でご来光をおがみましよう。



マンリョウ



センリョウ



ヤブコウジ